

教育研究業績書

2023年10月23日

所属：心理学科

資格：講師

氏名：吉岡 由美

研究分野	研究内容のキーワード
臨床心理学	心理療法、カウンセリング、
学位	最終学歴
修士（文学）	武庫川女子大学大学院文学研究科心理臨床学専攻 修士課程修了 武庫川女子大学臨床教育学研究科臨床心理学専攻（臨床心理学）博士 後期課程 単位取得満期退学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. オンデマンド型授業における質疑応答の工夫	2020年4月～現在	オンデマンド型授業の実施において、学生と双方向のやり取りは困難である。そのため、学修する上で起こった疑問点については、毎回Googleフォームで回収し、できる限りそれらすべてに回答を記入し次回授業までにClassroomに掲示した。簡単な疑問に対して正解を示し、より深い理解には自らの努力を重ねてもらえるよう工夫した。
2. 授業前アウトブレイクの実施	2015年4月～現在	毎回の授業の最初に前回授業の復習ができるよう、パワーポイントを用いて穴埋め問題を実施。授業前のアイスブレイクの効果もあり、この間に授業を受ける体制を整えられるよう実施している。
3. 双方向の意見交換による授業実践	2015年4月～現在	講義授業において講師の一方的な語りにならぬよう、適宜学生が自ら考え、学びに参加できるように心がけている。関連する話題のトピックなどから問いかけを行い、教科書の上での出来事ではなく身近な問題として考え、またそれを述べられるような工夫を行っている。
4. 視覚的情報を取り入れた授業実践	2015年4月～現在	教科書、板書のみではなく、出来る限り映像、写真等の情報を取り入れ、聞くだけ、書くだけでは理解・学習が不十分な点を補うこと、また学習に対する意欲を高めるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材		
1. 「心の傷に寄り添って-災害・被害のトラウマと心のケア-」(DVD教材)	2005年12月1日	編集者：杉村省吾・本多修 武庫川女子大学発達臨床心理学研究所阪神・淡路大震災10周年事業として、被災者へのこころのケア活動、災害・被害によるトラウマとこころへの影響、災害・被害に対する危機対応と緊急支援の流れ、ストレスマネジメントとカウンセリングを含むDVDを作成し、日本心理臨床学会、被害者支援全国研修会、学校臨床心理士全国研修会等で利用するマニュアルとして配布した。 2009年9月以降は、「トラウマとPTSDの心理援助-心の傷に寄り添って-」（金剛出版）（後出）の添付として販売した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 大学院生臨床指導	2023年4月1日～現在	武庫川女子大学大学院臨床心理学専攻学生の臨床ケースのグループスーパービジョンを担当
2. 大学院生ケーススーパービジョン	2023年1月7日～現在	甲子園大学大学院の大学院生に対するケーススーパービジョンを実施。
3. 児童養護施設プレイセラピー実習のスーパービジョン	2021年10月～現在	大阪市にある児童養護施設博愛社において、本学大学院生がボランティア実習としてプレイセラピーの実践を行っている。それに対する個人およびグループスーパービジョンを担当。
4. 発達の問題を抱える男児へのプレイセラピーのスーパービジョンの実施	2013年5月～2014年3月	大学院院生が担当する発達の遅れが気になる男児へのプレイセラピーおよび母親並行面接のスーパービジョン
5. 中学生の不登校ケースのスーパービジョンの実施	2013年5月～2014年3月	大学院院生が担当する身体症状から不登校を呈する中学生男子の心理療法および母親並行面接のスーパービ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
6. 自閉症と診断された小学生女兒へのプレイセラピーのスーパービジョン	2011年4月～2013年3月	ジョン 大学院生が担当する自閉症と診断された女子小学生プレイセラピーのスーパービジョン
7. 問題行動がみられる児童へのプレイセラピーのケーススーパービジョンの実施	2010年10月～2013年3月	大学院生が担当する問題行動がみられる児童のプレイセラピーおよび母親並行面接のスーパービジョン
8. 武庫川女子大学発達臨床心理学研究所 研究員	2009年4月～2017年3月	外来相談室の相談対応
9. 高校生の不登校へのカウンセリングに対するケーススーパービジョンの実施	2009年3月～2011年3月	大学院生が担当した不登校状態の女子高校生に対するカウンセリングへのスーパービジョン
10. 小学生の不登校ケーススーパービジョンの実施	2009年3月～2011年3月	大学院生が担当する不登校の小学生男児へのプレイセラピーおよび母親並行面接のスーパービジョン
11. 問題行動がみられる女兒へのプレイセラピーのケーススーパービジョンの実施	2009年3月～2010年3月	大学院生が担当する他児への暴力等問題行動がみられる女兒のプレイセラピーおよび母親並行面接のスーパービジョン
4 その他		
1. 心理学科クラス担任	2023年4月～現在	2023年度心理1年生の担任を担当している。初期演習での指導だけでなく、履修状況・進路指導等の指導を個々の学生に実施している。
2. オープンキャンパス模擬授業担当	2021年7月10日	「私の心が見えますかー心理学って何？ー」というタイトルで、一般的な心理学の説明と臨床的アプローチについて体験授業を行った。
3. 心理・社会福祉学科クラス担任	2021年4月～2022年3月	2021年度は当心1年生、2022年度は当心2年生の担任を担当している。初期演習での指導だけでなく、履修状況・進路指導等の指導を個々の学生に実施している。
4. 教員免許更新制免許状更新講習 講師	2019年8月16日	大阪府常磐会短期大学において、幼稚園教諭免許状を有する対象者に対し、講座名「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む）」を担当した。
5. 教員免許更新制免許状更新講習 講師	2018年8月	大阪府常磐会短期大学において、幼稚園教諭免許状を有する対象者に対し、講座名「子どもの生活の変化を踏まえた課題（カウンセリングマインドの必要性）」を担当した。
6. 兵庫県私学振興協会生徒指導連絡協議会主催研修 講師	2016年6月8日	兵庫県下の私立学校生徒指導担当教員対象研修会において「カウンセラーの関わり方」と題した研修を行った。
7. 私立中学・高等学校研修（教員対象）	2012年3月8日	スクールカウンセラーとして勤務する私立中学・高等学校の教員に対し「発達障害について」と題した教員研修を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 公認心理師	2019年4月18日	登録番号 第24225号
2. 精神保健福祉士	2018年4月1日	登録番号 第79127号
3. 臨床心理士	2002年04月1日	登録番号 第9877号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 神戸市立中学校におけるいじめ調査委員	2023年4月～現在	神戸市で発生したいじめの重大事態の調査を行う。
2. 芦屋市いじめ調査委員（ヒアリング担当）	2022年12月～現在	いじめ調査に伴う、児童へのヒアリングを担当。
3. 学生相談センター 専門委員	2021年4月～	学生相談センター専門委員として、センターで受理した相談事例について、その見立てと対応の検討の協議、センター運営に携わっている。
4. 令和2年度神戸市立中学校生徒自死事案に関するいじめ調査員会委員	2020年12月18日～2022年12月9日	2020年9月に発生した、神戸市内中学生の自死事案に関するいじめ調査を行い報告書にまとめた。
5. 武庫川女子大学発達臨床心理学研究所 研究員	2020年4月～	研究員として継続した外来継続相談やインテーク面接の実施、インテーク会議への参加、その他研究所運営業務に携わる。
6. 武庫川女子大学発達臨床心理学研究所心理教育相談員	2018年4月1日～2020年3月31日	外来相談室の相談員として、来談を希望する方のインテーク面接、継続面接の担当を行った。
7. 常磐会短期大学学生相談室相談員	2015年4月～2016年3月	学生相談室相談員として談話室（あじさいルーム）に

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
8. 武庫川臨床心理学研究会準備委員	2015年～2019年	<p>において学業に関する相談、異性関係や交友関係のトラブルの相談、家族関係の問題をかかえる学生の個別カウンセリングなどを行った。</p> <p>武庫川女子大学大学院文学研究科臨床心理学専攻院生および修了生で構成される研究会の準備委員として毎年、研究会を開催している。</p>
9. 医療機関における、心理検査及び心理療法の実践	2013年4月～2020年3月	<p>主に精神科、神経内科、リハビリテーション科に通院・入院する統合失調症、うつ病、高次脳機能障害、認知症等を呈する患者に対する心理検査、神経心理学検査、心理カウンセリングを行った。</p>
10. 私立中学・高等学校におけるスクールカウンセリング	2012年4月～現在	<p>スクールカウンセラーとして、生徒、保護者、教員への個人カウンセリング、家族カウンセリング及び教員等関係者とのコンサルテーションを行っている。</p>
11. 企業内健康管理室におけるメンタル不全を呈する従業員の個人カウンセリングおよび管理職とのコンサルテーションの実践	2011年6月～2020年3月	<p>機器を製造する工場の健康管理室内において、うつ症状や適応障害を呈する従業員に対し個別カウンセリング、休職中の心理支援、復職支援、上司とのコンサルテーション等を行った。</p>
12. 精神科クリニックにおける心理検査の実践	2001年6月～2004年3月／ 2009年4月～2020年3月	<p>様々な症状を訴え受診する患者に対し、医師の指示の元に各種心理検査を実施している。主に、知能テスト（WAIS、WISC）、神経心理学的検査（MMSE、HDS-R、COGNISTAT等）、投影法（バウムテスト、ロールシャッハテスト、風景構成法）、質問紙法（Y-G性格検査、CMI等）を実施し、検査所見の作成、患者へのフィードバック等を行った。</p>
13. 精神科クリニックおよび併設のカウンセリングルームにおける心理療法の実践	2001年6月～2004年3月／ 2009年4月～2020年3月	<p>精神科クリニックを受診する不登校、うつ病、双極性感情障害などの気分障害、社会不安性障害、強迫神経症、摂食障害、非定型精神病や統合失調症、認知症を患う10代～80代の患者に対し、医師の指示のもと、心理療法を実施した。</p>
4 その他		
1. 新学科準備ワーキング	2022年10月～2023年3月	<p>新学科が始動するに先立って、役割や業務分担について検討するWGに参加した。</p>
2. 臨床系カリキュラムワーキング	2021年8月～2022年7月	<p>公認心理師養成にかかる臨床系科目の在り方と、養成課程について議論し、新学科および大学院のカリキュラム変更について検討した。</p>
3. 武庫川女子大学「認知症予防教室」認知機能評価の指導	2021年8月～	<p>食物栄養学科、応用音楽学科、看護学科、心理・社会福祉学科が共同で実施している「認知症予防教室」において、認知機能評価に関する指導を行っている。</p>
4. 兵庫県臨床心理士会事務局 事務担当	2020年4月～現在	<p>会全体の予算管理、運営事務業務を行っている。</p>
5. 兵庫県臨床心理士会地方職能団体ワーキンググループ事務担当	2017年4月～2020年3月	<p>兵庫県臨床心理士会における地方職能団体ワーキンググループの開催業務などを担当している。</p>
6. こころの健康電話相談 相談員	2011年1月30日	<p>兵庫県臨床心理士会が実施した電話相談会に、相談員として参加した。</p>
7. 兵庫県臨床心理士会被害者支援専門委員会 事務担当	2008年4月～2020年3月	<p>兵庫県臨床心理士会被害者支援専門委員会主催のひょうごHEART研修の開催運営事務などを担当した。</p>
8. 兵庫県臨床心理士会スクールカウンセラー専門委員会 事務担当	2005年4月～2020年3月	<p>兵庫県臨床心理士会スクールカウンセラー専門委員会主催研修の開催運営事務、スクールカウンセラー募集に関する業務を担当している。</p>
9. 第20回学校臨床心理士研修会（於：武庫川女子大学）運営事務担当	2015年8月22日～8月23日	<p>およそ2000人のスクールカウンセラーが全国から集まる研修会の運営事務を担当した。</p>
10. 私立幼稚園キンダーカウンセリング	2011年6月～2013年3月	<p>2か月に1度幼稚園を訪れ、子どもの観察から気になる子に関するコンサルテーション、希望する保護者の子育て相談を実施した。</p>
11. 東日本大震災の被災地派遣スクールカウンセラー派遣事業 事務担当及び後方支援	2011年5月～2017年3月	<p>宮城県（石巻市・南三陸町）、岩手県（山田町）へ兵庫県臨床心理士会の会員がスクールカウンセラーとして派遣されるにあたり、派遣者の募集・決定、派遣事務手続き、派遣後の活動報告会の開催、引継ぎ会開催支援等を行った。</p>
研究業績等に関する事項		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 「トラウマとPTSDの心理援助-心の傷に寄り添って-」	共	2009年9月	金剛出版	阪神淡路大震災の後、心のケア活動に尽力した臨床心理士が、災害のみならず様々な事件・事故によるトラウマ、また児童虐待や不登校を支援するための方法について、実践的報告を踏まえて記した。その中で「いじめ・不登校への心のケア」を担当。心理療法を通してかかわりたいじめをきっかけに不登校状態にあった子どもの母親との面接を踏まえ、家庭の中でできる子どもとのかかわりについて考察した。 (編著者：杉村省吾・本多修・富永良喜・高橋哲 共著者：佐方哲彦、八木修司、織田島純子、吉澤美弥子、大原薫、堀口節子、大上律子、岡崎順子、市井雅哉、森田喜治、佐伯文昭、村本邦子、齊藤文夫、平山由美、羽下大信、倉石哲也) (本人担当：第八章一節 pp.235-244)
2 学位論文				
1. 修士論文「女性の自我同一性確立における母親の影響についての研究」	単	2001年3月	武庫川女子大学大学院文学研究科心理臨床学専攻修士論文	女性の自我同一性確立において母親がどのように影響するのかについて、女子大学生の事例と不登校女児の事例から検討を行った。
3 学術論文				
1. 心理的支援として話を聴くということ-日常生活を支えるイメージ-	単	2023年2月	武庫川女子大学学生相談センター紀要 第32号 (2022)	日常的な生活を支える心理的支援の中で、拠り所を失うような大きな喪失体験の語りを、どのように聴こうとするのかについて論考した。
2. コロナ禍における分からないことに耐えるカー心理臨床が行っていることの意味を考える-	単	2022年2月	武庫川女子大学学生相談センター紀要 第31号 (2021)	心理臨床ではすぐに症状や状態の改善を目指すことよりも、変わらないことに耐えながら、状況の変化を見守るということが行われる。コロナ禍のパンデミックで多くの人類が同じ状況に陥ったことを踏まえ、心理臨床とは何かを考察した。(pp.19-24)
3. 心理療法における話を聴くということ-聴けない事例から考える-(査読付き)	単	2021年3月	武庫川女子大学人間学研究会人間学研究第33号	「クライアントの語りを聴くことが心理療法である」ということについて、外的要因によって語りが聴けない事例から、心理療法とは何を聴いているのかについて検討した。(pp33-39)
4. 社会不安障害の成人女性との心理療法過程-描画を用いてかわること-(査読付き)	単	2020年3月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第21号	一人での外出が困難な社会不安障害を呈する女性との心理療法過程である。セラピスト(筆者)は、クライアントの感情が分かりづらく、関係の持ちにくさを感じ、心理療法の初期に風景構成法、スクイグル、MSSMを用いて関係性の構築を試みた。その後の経過を含め、描画を用いたことや両親との関係について考察を行った。(pp.43-54)
5. 特別支援学校に通う女子との面接過程(査読付き)	単	2010年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第12号	中学生時代から不登校であり、学習障害と診断され高校から特別支援学校に通う17歳女子との面接過程の報告である。当初の主訴は人間関係の相談であったが、経過の中で語られる恋愛や就職活動などの現実的な課題の経験と、樹木画、風景構成法、箱庭などの表現を踏まえて、一人の女性の成長の過程について考察を行った。(pp.25-36)
6. ある不登校児の母親面接過程	単	2006年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第8号	小学生の不登校の子どもをもつ母親とのカウンセリング経過を報告した。来談当初、密着した母子関係にあり、それから分離-個体化の過程を経て、子どもが対象恒常性を獲得して再登校に至るといった子育て直しが行われたという観点から事例を見つめ、母子並行面接における母親カウンセリングについての考察を行った。(pp.23-33)
7. 不登校女児の遊戯治療過程	単	1999年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要 第1号	小学生の不登校女児との遊戯療法を報告した。セラピストである筆者とクライアントの女児とのかかわりの中でセラピストがクライアントの女児への接触の難しさについて、母子関係の観点から考察を行った。(pp.143-156)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. グループ箱庭制作体験における心理的変	単	2009年11月	第23回日本箱庭療法学会 於：佛教	共感性に乏しく、自己愛的で、境界性人格障害に似た感情のコントロールの悪さ、衝動性の高さといった特徴を示すことが少なからず

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
化に関する研究（口頭発表）			大学	
2. グループ箱庭制作体験による心理的变化に関する一考察—樹木画、POMSを用いて—（ポスター発表）	単	2009年9月	第28回日本心理臨床学会 於：東京国際フォーラム	ある青年期に、共感され、支えられる経験をすることは、対人関係の問題の解決にもつながる。この方法として、グループ箱庭制作体験が有効と仮定し、実施した。参加者の箱庭表現の変化、各種心理検査結果から、体験について考察を行った。 青年期の心理的な揺らぎに対し、グループ箱庭制作体験が有効と仮定し、心理検査を用いて体験前後の変化について検討を行った。結果として、比較的安定する傾向にあることが示された。
3. 養護学校に通う17歳女性との面接過程（口頭発表）	単	2007年10月	第21回日本箱庭療法学会 於：長崎ハウステンボス	学習障害と診断され高校から養護学校（現特別支援学校）に通う17歳女子との面接過程を報告した。両親の離婚、ペットとの別れ、恋人との別れなど様々な別離を経験しながら少しずつ成長していく経過をバウム、風景構成法、箱庭表現を中心に考察を行った。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 事例報告「強迫神経症の女性との心理療法過程-引継ぎケースについて考える-」	単	2019年3月10日	第22回武庫川臨床心理学研究会 於：武庫川女子大学	担当セラピストが急死したクライアントとの面接過程について、その後任セラピストとしてかかわっている強迫神経症の女性的事例発表を行った。
2. 事例報告「不登校の子どもをもつ母親との面接過程」	単	2011年5月15日	第16回武庫川臨床心理学研究会 於：武庫川女子大学	不登校の高校生と中学生の子どもをもつ母親とのカウンセリング過程について事例発表を行った。
3. 発達リスク児・障害児を抱える養育者への支援-調査研究・事例研究-	共	2010年3月	平成21年度武庫川女子大学発達支援学術研究センター研究成果報告書	平成21年9月22日に第28回日本心理臨床学会自主シンポジウムにおいて報告した虐待によるトラウマと心理療法（その4）-児童養護施設における調査研究と事例研究に対するコメントを報告した。（分担研究者：杉村省吾、本多修、齊藤文夫、佐方哲彦、西井克泰、則定百合子、平山由美、共同研究者：倉石哲也、佐伯文昭、椿美沙子、渡部華奈 pp.57-72）
4. 自主シンポジウム「虐待によるトラウマと心理療法（その4）-児童養護施設における調査研究と事例研究」コメンテーター	共	2009年9月22日	第28回日本心理臨床学会 於：明治学院大学	第28回日本心理臨床学会自主シンポジウムにおいて児童養護施設における心理療法過程の報告ならびに調査報告に対するコメンテーターを務めた（発表者：椿美沙子、渡部華奈、コメンテーター：杉村省吾、本多修、齊藤文夫、佐方哲彦、西井克泰、則定百合子、平山由美、共同研究者：倉石哲也、佐伯文昭）
5. 発達リスク児・障害児、養育者への支援 a. 心理・社会的要因による発達リスク児・障害児への心理療法過程の分析、b. 発達リスク児・障害児を抱える養育者への支援	共	2009年3月	平成20年度武庫川女子大学発達支援学術研究センター研究成果報告書	平成20年9月5日に第27回日本心理臨床学会自主シンポジウムにおいて報告した虐待によるトラウマと心理療法（その3）-児童養護施設児のレジリエンス調査研究と性的虐待児の遊戯療法-について報告した。（共同研究者：杉村省吾、本多修、齊藤文夫、佐方哲彦、西井克泰、佐伯文昭、平山由美、植林美歩、井関良美、井上雅勝、小花和Wright尚子、則定百合子、羽川加奈子、川島裕美 pp.83-141）
6. 平成20年度発達臨床心理学研究所活動報告	単	2008年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第10号	平成20年度の相談室業務（新規受付ケース数、主訴別相談内容）、研究所主催公開講座等の活動報告書を作成した（pp.135-139）。
7. 自主シンポジウム「虐待によるトラウマと心理療法（その3）-児童養護施設児のレジリエンス調査研究と性的虐待児の遊戯療法-」コメンテーター	共	2008年9月5日	第27回日本心理臨床学会 於：筑波大学	第27回日本心理臨床学会自主シンポジウムにおいて、児童養護施設における心理療法過程の事例発表ならびに調査報告に対するコメンテーターを務めた。（発表者：植林美歩、川島裕美、コメンテーター：杉村省吾、本多修、齊藤文夫、佐方哲彦、西井克泰、佐伯文昭、平山由美、則定百合子、羽川加奈子）

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
8. 発達リスク児・障害児、養育者への支援 a. 心理・社会的要因による発達リスク児・障害児への心理療法過程の分析、b. 発達リスク児・障害児を抱える養育者への支援	共	2008年3月	平成19年度武庫川女子大学発達支援学術研究センター研究成果報告書	平成19年9月28日に第26回日本心理臨床学会自主シンポジウムを報告した。児童養護施設における心理療法と生活場面面接（報告：大山勝秀）の報告に対するコメントをまとめている。（、共同研究者：杉村省吾、本多修、齊藤文夫、西井克泰、佐方哲彦、佐伯文昭、平山由美、大山勝秀、宮腰裕子 pp.75-120）
9. 平成19年度発達臨床心理学研究所活動報告	単	2007年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第9号	平成19年度の相談室業務（新規受付ケース数、主訴別相談内容）、研究所主催公開講座等の活動報告書を作成した（pp.197-201）。
10. 自主シンポジウム「虐待によるトラウマと心理療法（その2）-児童養護施設における心理療法と生活場面面接-」コメンテーター	共	2007年9月28日	第26回日本心理臨床学会 於：東京国際フォーラム	第26回日本心理臨床学会自主シンポジウムにおいて、児童養護施設における心理療法と生活場面面接に対するコメンテーターを務めた。（発表：大山勝秀、宮腰裕子、コメンテーター：杉村省吾、本多修、齊藤文夫、西井克泰、佐方哲彦、佐伯文昭、平山由美）
11. 平成18年度発達臨床心理学研究所活動報告	単	2006年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第8号	平成18年度の相談室業務（新規受付ケース数、主訴別相談内容）、研究所主催公開講座等の活動報告書を作成した（pp.189-192）。
12. 平成17年度発達臨床心理学研究所活動報告	単	2005年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第7号	平成17年度の相談室業務（新規受付ケース数、主訴別相談内容）、研究所主催公開講座等の活動報告書を作成した（pp.235-239）。
13. 平成16年度発達臨床心理学研究所活動報告	単	2004年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第6号	平成16年度の相談室業務（新規受付ケース数、主訴別相談内容）、研究所主催公開講座等の活動報告書を作成した（pp.205-210）。
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2019年4月～現在	日本心理臨床学会
2. 2012年4月～現在	日本ユング心理学会
3. 2005年4月～現在	日本箱庭療法学会